

# くすのき

校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

西合志第一小学校  
学校だより 第56号  
文責 校長 西村羊治

令和6年12月16日

## 人生を変えたコント

私の好きなミュージシャンに「佐野元春」や「小田和正」、「ギルバート・オ・サリバン」などいろいろな人がいます。(ほとんどの人が知らないと思いますが・・・)大学生の頃は、「佐野元春のコンサートにチャンスがあれば行ってました。また、お笑いは中学生の頃、漫オブームになり今でも漫才は好きです。特に、「テンダラー」や「パンクブーブー」が好きです。「パンクブーブー」のライブを観に行ったことがあります。

何でこんな話をするのかというと、若い世代に人気のある漫才師の「霜降り明星」の「せいや」さんが書いた半自伝小説を15日(日)の夜に読みました。その日の夕方久しぶりに会った長女に借りた本です。漫才やコントはもちろん、ドラマでもYouTubeでも活躍している「時の人」です。私自身は、「霜降り明星」にはあまり興味が無かったのですが、13日(金)に放送された中井君がMCの「金スマ」の録画を長女が見ていました。内容は高校時代のいじめが主でした。途中からしか見なかったので、長女が持っていた本を借りたのです。その夜、本を読み進めると、せいやさんが半自伝小説に書いている内容がすごい経験だったので、一挙に読んでしまいました。

具体的な内容はこうです。中学生でサッカーや生徒会長をしていたせいやさんが、高校に入学して人生が一転してしまい、せいやさんに対するいじめが急に始まります。毎日教室の机を逆さまにされています。暴力も振るわれます。休み時間は誰とも話すことができません。昼食の弁当を一緒に食べる人もいません。いじめグループから掃除道具入れのロッカーに閉じ込められて、外からバンバンたたかれてドアを真下にして倒されるのです。そのようないじめが毎日続き、いじめグループの餌食となり、周りの生徒は自分を守るために傍観者になったままです。担任も分かって三者面談をするけど、せいやさんの「親を心配させたくない」と言う思いから「いじめられていない」と言い張ります。しかし、いじめは深刻さを増し、とうとうせいやさんの心身はむしろまれ円形脱毛症が酷くなり、高校1年の若さで禿げてしまうのです。

しかし、それを大きく変える出来事が起こります。本には文劇祭と書いてありますが、文化祭なるものがあり、いじめグループがせいやさんを落とし入れるために「劇の台本を書け」と命令するのです。そして、それを逆手にとり前から漫才や面白いことが好きだったせいやさんは、一人でシナリオを徹夜を何日もして書き上げるのです。その後も、いじめグループからの嫌がらせはどんどん加速し酷くなっていきます。しかし、せいやさんはもちろん、せいやさんを支える数人の同級生も出てきて、文劇祭当日を迎えます。いじめグループは、劇を妨害するために照明係を買って出ます。しかし、その妨害に対してもせいやさんたちは、爽快に対処していくのです。この様なことを高校時代に経験し、乗り越えたせいやさんは、尊敬に値するすごい人だと思いました。せいやさんの本、機会があったら是非読んでみてください。お勧めです。原稿は手書きしたそうです。

いじめは恐ろしいもので、いつでも誰でもが標的になってしまうかも知れません。そうならない第一小を作っていきましょう。



「どん底から  
這い上がった  
人のほうが  
絶対に強い！」  
(せいや)